

令和5年度(2023年度)セタシジミ資源概況調査

孝橋賢一・佐野聡哉

1. 目的

近年、セタシジミの漁獲量は100トンを下回るまでに激減している。そこで本資源の現状を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業を推進するため、産卵期にあたる5~7月に実際の漁具を用いた採捕調査を行った。

2. 方法

2023年6月10日および12日に琵琶湖北湖一円の主要7漁場を含む16漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網(開口幅167cm、目合約3cm)を用いて調査した。曳網時間は船頭の任意とし、各漁場内で3回繰り返して、それぞれ採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。なお結果の集計には、全て殻長14mm以上のものを対象とし、解析に供した。また曳網面積の推定には、昨年同様、漁具に取り付けたボイスレコーダーの解析によった¹⁾。

3. 結果

セタシジミの曳網面積1m²あたりの入網個体数(漁獲密度)は、全漁場の平均では前年の0.40個体/m²から0.42個体/m²に増加した(表1)。地域別の平均では、東岸で前年の0.38個体/m²から0.46個体/m²に増加したのに対し、西岸では0.45個体/m²から0.33個体/m²に減少した。

主要7漁場の漁獲密度の平均は前年0.32個体/m²から0.43個体/m²(表1)に増加した。漁場別では、湖東の沖島周辺の漁場で大幅に増加した一方で湖北の長浜で減少した(図1)。

サイズ別では、漁獲対象である殻長18mm以上の密度が平均0.11個体/m²から0.15個体/m²に、殻長14mm~18mmは0.21個体/m²から0.28個体/m²に増加した(図2)。

表1 2023年の禁漁期における漁場別漁獲密度

漁場	曳網回数	平均曳網面積(m ²)	平均漁獲密度(個/m ²)	標準偏差
東岸				
今西	4	186	0.19	0.08
長浜	3	288	0.08	0.03
磯	3	134	0.21	0.03
松原	3	173	1.06	0.37
石寺	3	191	0.14	0.02
新海	3	229	0.13	0.07
沖島東	3	106	0.61	0.33
沖島西	3	282	0.55	0.11
沖島南西	3	313	0.30	0.07
牧	3	205	0.80	0.16
菖蒲	3	146	0.95	0.85
西岸				
海津	3	191	0.19	0.11
針江	2	42	0.12	0.17
鴨川	3	195	0.33	0.15
高島	3	215	0.22	0.14
近江舞子	3	110	0.82	0.44
平均	全体		0.42	
	主要漁場		0.43	

※ゴシック体は主要漁場

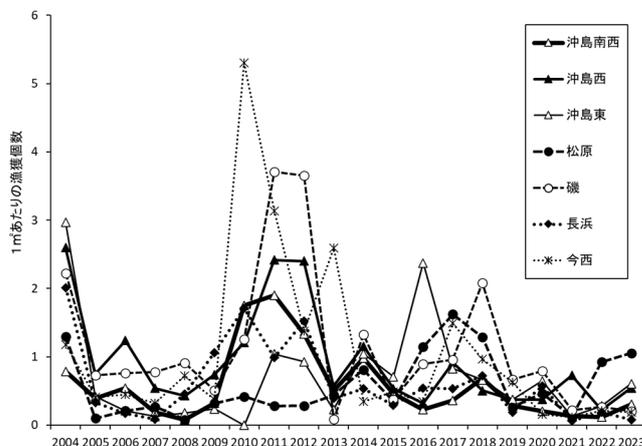


図1 各主要漁場における漁獲密度の推移

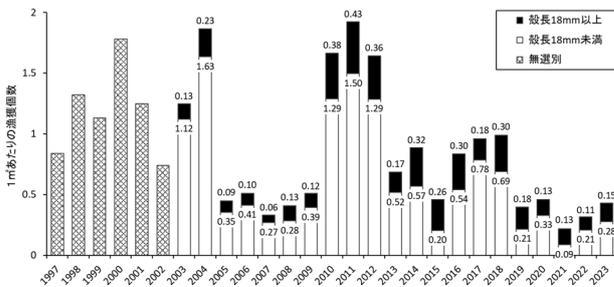


図2 主要漁場における平均漁獲密度とサイズ別内訳

引用文献: 1)井戸本純一(2021):音響ロガーを用いた貝桁網曳網面積推定制度の向上(令和3年度滋賀県水産試験場事業報告)本研究は水産庁からの委託事業「水産資源調査・評価推進委託事業」の一部として実施した。